

令和3年度 北六番丁小学校 校内研究計画

1 研究主題、副題

一人一人の考えをつなげて、協働的に学ぶ児童の育成

～個が生きる学習方法の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領等から

平成29年告示の小学校学習指導要領解説総則編において、学習の基盤となる資質・能力の一つとして情報活用能力の育成が重要視されている。「各学校において日常的に情報技術を活用できる環境を整え、全ての教科等においてそれぞれの特質に応じ、情報技術を適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要」と示されていることに加え、令和2年度より、「GIGAスクール構想」の実現に向けて、一人一台端末を使用した新たな学びへの転換が求められている。

(2) 本校の教育目標から

本校では「心豊かで、未来をたくましく生きぬく子供の育成」を教育目標に掲げその具現化に努め、学び方が分かる、課題解決に向かって対話を通して考える、生活や他者と結び付けて学習を発展させることを育てたい資質・能力としている。また、本校の経営の基本の一つに「よりよい未来を実現する授業」を掲げ、個々が活躍し、確かな学力を身に付けさせるための授業展開やICT活用(全学級での実物投影機配備やiPadやMESHを使ったプログラミング学習)の実践を重ねてきた。

(3) 本校の実態から

本校児童においては、主体的に課題と向き合い、解決の方法を粘り強く考えたり、かかわり合いを通して、自他の考えを比べて分析したりすることに課題が見られる。協働型学校評価の到達目標にも「人とかかわる力の育成」を掲げ、自分の考えや思いを伝えることができる子を指す児童像の一つとしている。

以上3点を踏まえ、児童が主体的に課題と向き合い、他者との対話を通して協働的に学びを進めながら、自身の学びの変容を自覚したり、考えを深めたりできる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 研究の基本的な考え方

(1) 「考えをつなげて、協働的に学ぶ」とは

探究の過程(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現)の各段階において、これまでの知識や学習方法を関連づけて考えることに加え、多様な方法(ペア、グループ、実物投影機やクロームブックを活用した考えの共有など)で意見交換をし、同じ点や違う点に気づき、学びを深める。キーワード：くらべる

(2) 「個が生きる学習方法の工夫」とは

学習形態の工夫や、ICT活用の工夫「①一斉(拡大提示、書き込み、動画)②個別(アダプティブドリル、調査活動、個別制作)③協働(話し合い、意見整理、協働制作)」など、誰一人取り残さない、個別最適化された学びの在り方を探ることと捉える。

4 研究のねらい

- 考えをつなげて協働的に学ぶ児童の育成を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の方法を探る。
- 個が生きる学習方法の工夫を通して、教員の指導力向上を図る。

5 研究の視点

＜視点＞ 個が生きる学習方法の工夫（くらべる→つなげる）	
（１）課題解決に向かって対話を通して考えるための「整理・分析」場面の設定	（２）生活経験や他者の気付きと結び付けて、本時の学びを実感させる「まとめ・表現」場面の設定
<ul style="list-style-type: none"> • 解決の見通しを持てるよう、既得の知識とくらべながら、収集した情報を整理・分析し活用できるようにする。 • 自分の意見とくらべながら、同じ点や違う点について考えを述べ合う。（ペア、グループ、実物投影機、iPad、クロムブックでの様々な意見共有を想定） 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業の終末に振り返りの時間を設定し、文章で振り返らせる。 • 何ができるようになったかを児童に実感させ、本時の学びを次の学習へとつなげる。 「もっといい方法はないか」「今度は何を調べたい」「新たに～ということが疑問になった」

6 研究の方法

（１）一人一授業・研究の振り返り

- 一人一回の研究授業を行う。そのうち学年部で決定した代表授業は学年部全員で参観する。
- 指導案は、本時案＋単元計画（書式1）にまとめる。
- 授業者の取り組み、研修全体を振り返り、成果と課題をまとめる。（書式2）
※模擬授業は授業者＋学年＋研究主任で可能な限り実施

（２）事後検討会

- 授業後に学年部で事後検討会を行う。（30分）

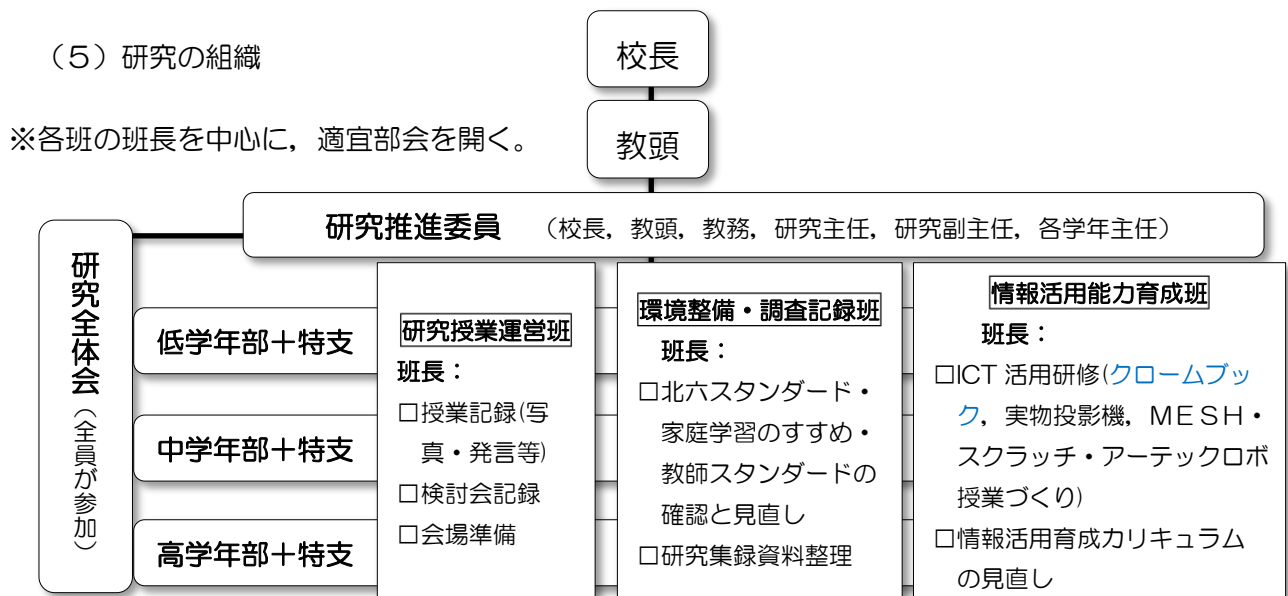
5分	授業者自評
10分	授業についての検討(成果と課題)
5分	意見共有
10分	まとめ

※外部講師が入る研修では、上記の日程とは異なる場合もある。

（３）研究のまとめかた

- 今年度の取り組みと各学年の研究の成果と課題を視点に沿ってまとめる。
- 年度当初にファイルを準備し、各自の指導案と振り返りを綴り込んでいく。

（５）研究の組織



研究の足跡

月	内容
4月	4/2 Chromebook 活用研修（特別活動：委員会） 4/9 北六授業のスタンダードの共通理解 4/23 第1回研究全体会「研究の概要説明」 4/28 自由参加OJTタブレット端末活用研修（MESH・アーテックロボ）
5月	5/11 Chromebook 活用研修（特別活動・クラブ） 5/14 研究推進委員会（研究授業の進め方について） 一人一授業 授業日決定 5/26 自由参加OJT Chromebook 活用研修 （ロイロノート・navima）
6月	6/18～ 「学力向上委員会①」学力検査校内分析について 6/30 「講話『個が生きる学習方法の工夫』（仮）」 講師：東北学院大学 教授 佐藤正寿先生
7月	7/5 「現職教育 麻生校長講話」 7/16 「プログラミング教育研修」 ・領域A：5年算数、6年理科の指導の実際 7/19 第2回研究全体会 代表授業振り返り
8月	8/24 「情報活用能力年間計画の見直し」※運営反省と合わせて ※Chromebook 活用状況確認
9月	9/10 「自由参加OJT Chromebook 活用研修（Meet を使ってみよう♪）」
10月	10/27 「授業づくり訪問校内指導案検討会」上学年・下学年チーム毎 予定
11月	11/9 「ぐるぐる参観」 ※全教室を5分程度参観していただきます。 講師：東北学院大学 教授 佐藤正寿先生 11/17 「授業づくり訪問1」指導案検討会
12月	12/15 「授業づくり訪問2」授業・事後検討会 12/23 「北六スタンダード見直し」
1月	1/28 「授業参観・佐藤正寿先生飛び込み授業」（予定） 講師：東北学院大学 教授 佐藤正寿先生
2月	2/2 「研究推進委員会」次年度の研究計画について 2/4 「第3回研究全体」 ・なかよし学級実践発表
3月	3/4 「第4回研究全体会」 ・令和3年度研究の振り返り ※一人一枚「振り返りシート」を作成 ・次年度の研究テーマについて
	研究集録完成 3/23 「研究推進委員会」次年度校内研究骨子について

授業づくり
訪問の教科
は算数で
す。上学
年・下学
年から1つ
ずつ提案授
業を行いま
す。